

29年5月

水稲の栽培管理について ～ 田植え後から6月下旬までの管理 ～

○田植え後の水管理

田植え後は、保温のため3～4日間は水深3～5cmを保ち、活着後は分けつを進めるため2cm程度の浅水管理を行いましょう。

○6月上旬頃から間断灌水を！

気温・水温が上昇してくると水田の有機物の分解が進みガスが発生しやすくなります。間断灌水を実施してガス抜きを行いましょう。

○中干しを確実にし、無効分けつの防止と根張りの良い稲体づくりを！

有効茎数（葉が三枚以上の茎）が16～18本まで分けつが進むと中干しの時期となります。通常7～10日間を目安としますが、生育状況や天候・土壌条件によって期間を調整しましょう。5月中旬以降に田植えを行った場合は、中干し時期が梅雨の最中となるため、中干しを長めに行いしっかりと根を張らせましょう。

※近年問題となっている「乳白粒」予防のため、間断灌水・中干しをしっかりと行い、稲刈りの10日前頃まで水を当てるこの出来る固く締まった水田に仕上げましょう！

除草剤（中・後期）

除草剤名	使用時期	使用量(10a)	使い方・注意事項
テッケン1キロ粒剤	田植え後15日～ノビエ4葉期 但し収穫60日前まで	1kg	葉齢の進んだ雑草にも効果が高い。クログワイは草丈20cmまで、オモダカは草丈30cmまで。
ハイカット1キロ粒剤	田植え後15日～ノビエ3.5葉期 但し収穫60日前まで	1kg	クログワイ・オモダカに効果が高い。クログワイは30cmまで、オモダカは矢尻葉3葉期までに散布。
レブラス1キロ粒剤	田植え後14日～ノビエ4葉期 但し収穫60日前まで	1kg	ホタルイ・クログワイ・ノビエ・オモダカに強い成分を混合し殺草力を高めた新規中後期除草剤
クリンチャー1キロ粒剤	田植え後7日～ノビエ4葉期 但し収穫30日前まで	1kg	ヒエ専用剤 水の出入りを止めて湛水状態で散布。
モゲトン粒剤	ウキクサ類・藻類の発生始～発生盛期 但し収穫45日前まで	2～3kg	藻類・表層剥離に効果がある。
バサグラン粒剤・液剤	田植え後15～50日 但し収穫60日前まで (液剤は収穫50日前)	3～4kg 500～700ml 水70～100L	落水状態 （足跡に水が残っている程度）で散布。イネ科雑草を除く多様な多年生雑草に効果がある。
クリンチャーバスME液剤	田植え後15～ノビエ5葉期 但し収穫50日前まで	1000ml 水70～100L	落水状態 （足跡に水が残っている程度）で散布。ノビエ・広葉雑草に効果あり。

いもち病の予防（6月中旬頃）

いもち病は、気温25～28℃で降雨が連続すると発生しやすくなります。いもち病の予防剤入りの箱処理剤を使用していない場合は、6月中旬から7月上旬頃に特に注意していただき、「コラトップ粒剤」等の予防剤を散布して下さい。
※JA育苗センターの主食用苗については、いもち病の予防剤入りの箱剤を使用しております。

田んぼの雑草図鑑



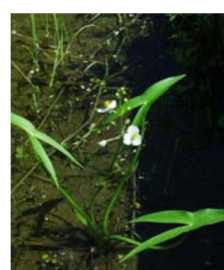
ホタルイ



ホタルイ（3葉期）

【注意！】

ホタルイは草丈3cm程度の3葉期までに除草剤を散布しないと取りこぼしが多くなります。



オモダカ



クログワイ